

文化芸術に関するアンケート(文化団体向け)

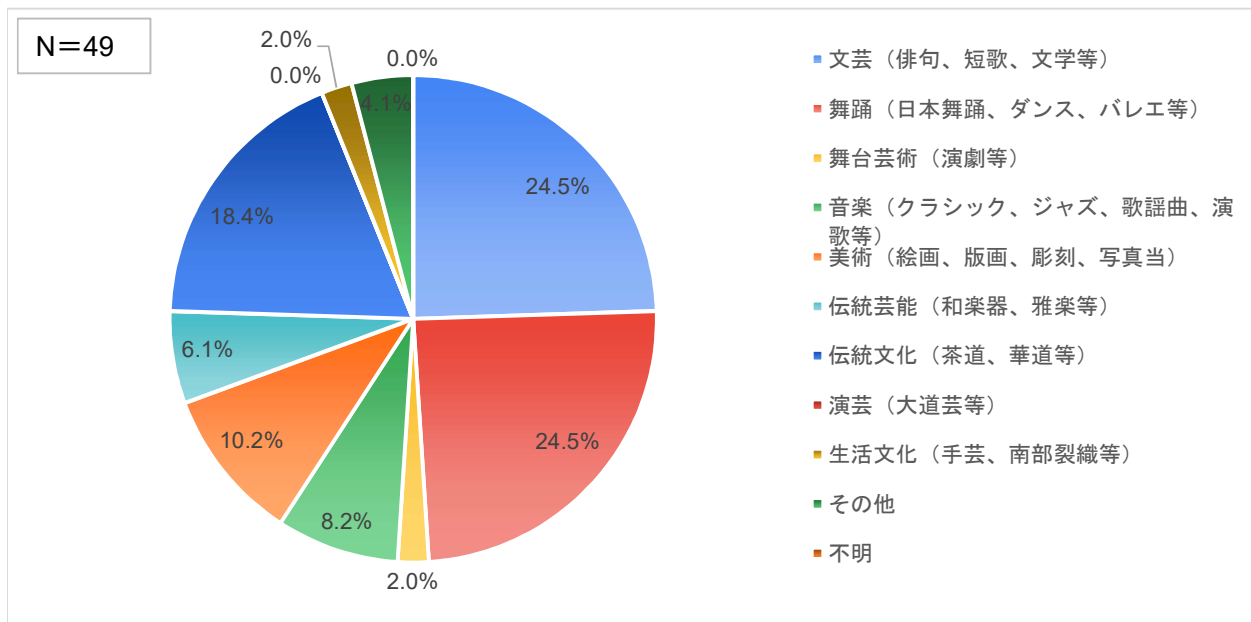
アンケート実施期間 2025/12/15～2026/1/9

113団体へ送付 49団体から回答

I あなたの活動している団体についてお尋ねします

問1 団体についてお聞きします

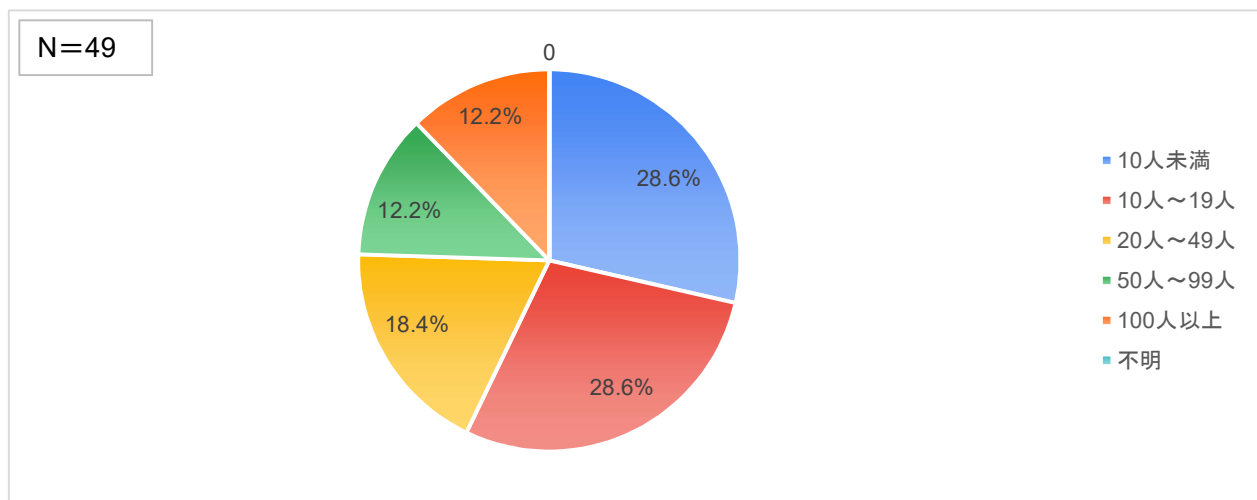
(1) 活動のジャンルについて



文芸・舞踊がそれぞれ約4分の1を占め、伝統文化も2割弱と比較的多く、八戸市文化協会の所属団体を中心にこれらの分野の活動が活発であることがうかがえる。一方で、舞台芸術や生活文化などは少数にとどまっており、ジャンルによって活動量に偏りが見られる。

(2)は団体名称なので省略

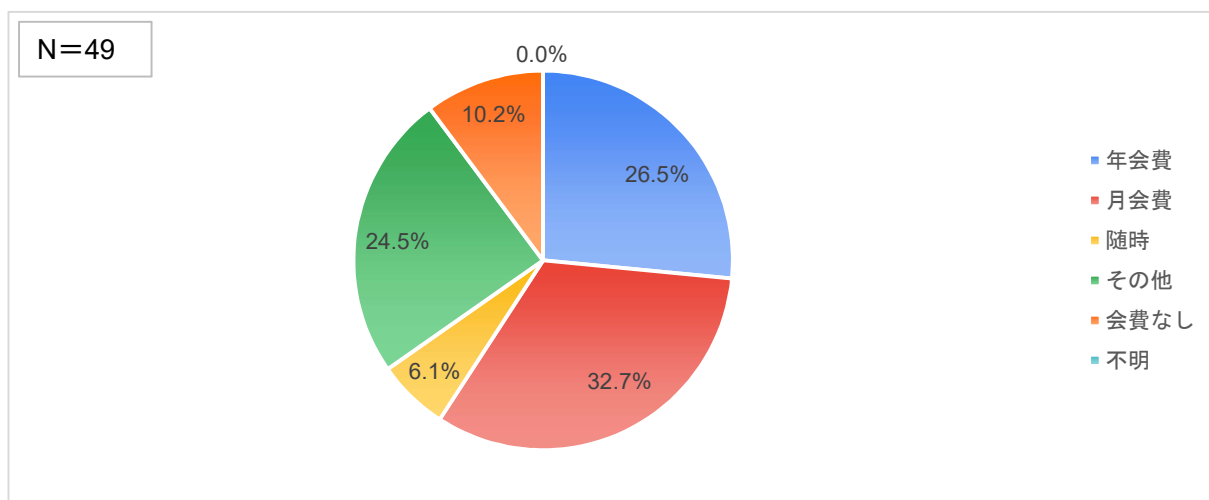
(3) 会員やメンバー数について



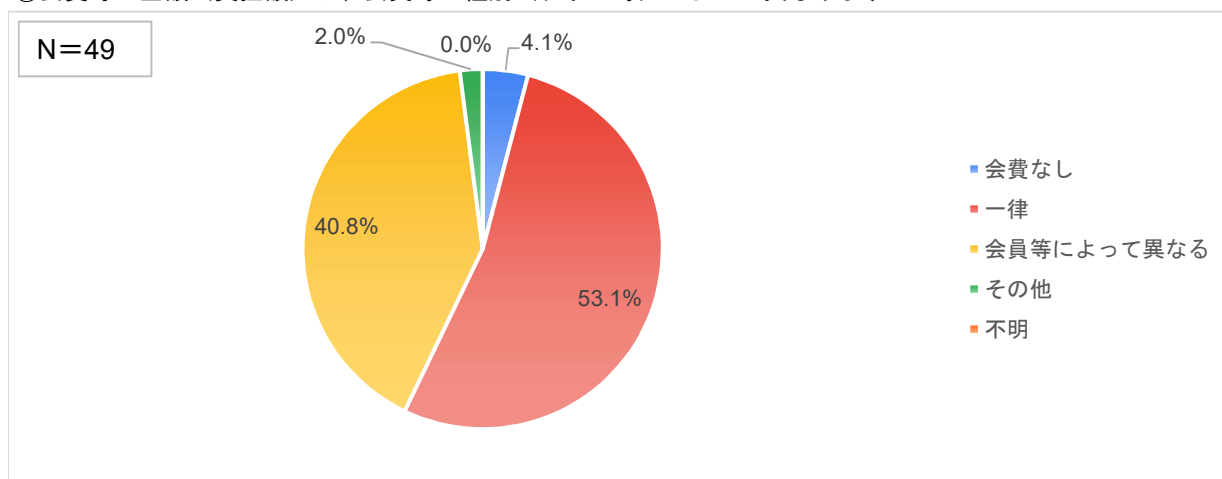
「10人未満」「10～19人」がそれぞれ約3割を占め、小規模団体が多数を占めている。一方で、50人以上の団体も一定数存在しており、少人数で継続的に活動する団体と、比較的規模の大きい団体が併存している状況が見て取れる。

(4) 活動にあたり、会員等の会費や活動・発表等に伴う負担金について

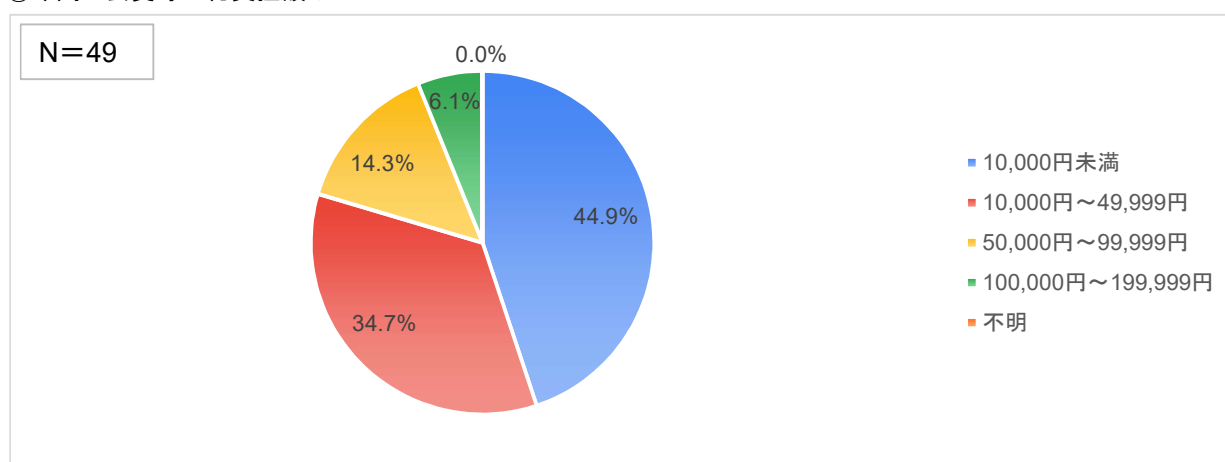
①会費等を支払う頻度について



②会費等の金額（負担額）は、会員等の種別（クラス等）によって異なりますか？



③年間の会費等の総負担額は？

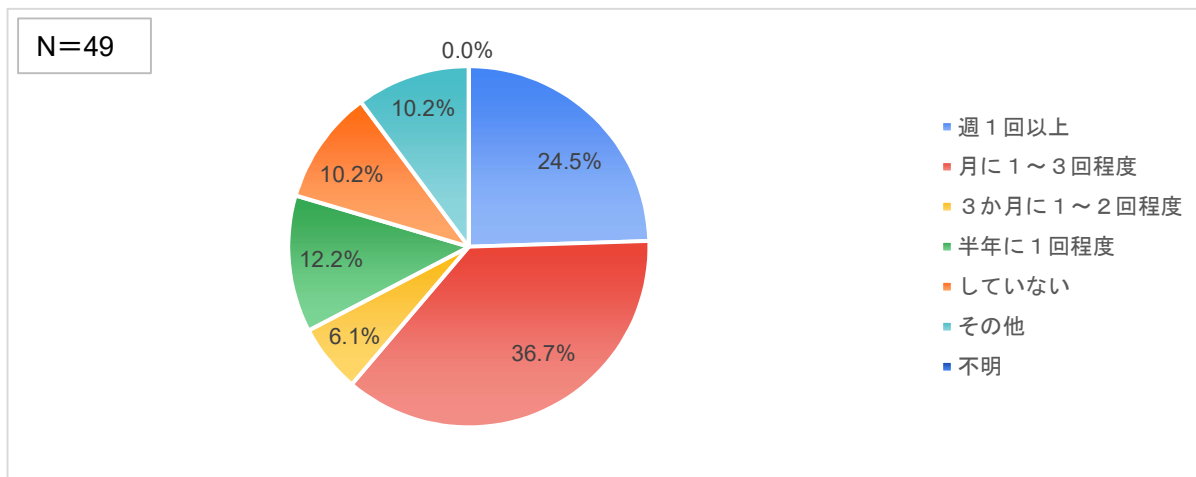


会費の支払い頻度は「月会費」「年会費」が中心であるが、「その他」も約4分の1を占めており、団体ごとに運営形態が多様であることが分かる。

年間負担額は「1万円未満」「1～5万円未満」が約8割を占め、個々の会員の金銭的負担は比較的抑えられている一方、団体運営全体としては収入規模が小さい可能性が示唆される。

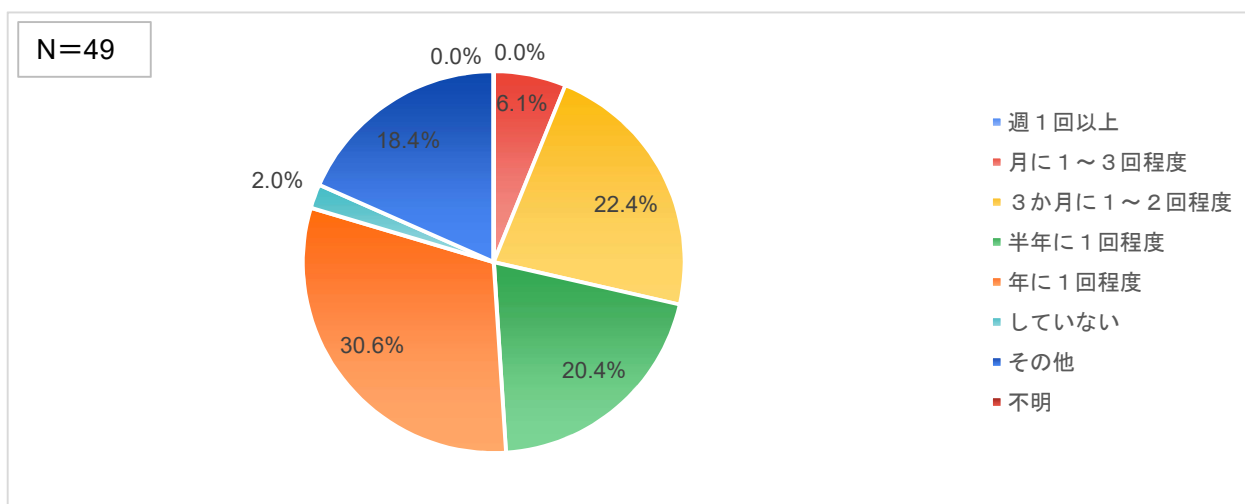
問2 活動の頻度や場所、課題等についてお聞きします。

(1) 練習など、会員等のみの活動の頻度はどの程度でしょうか？



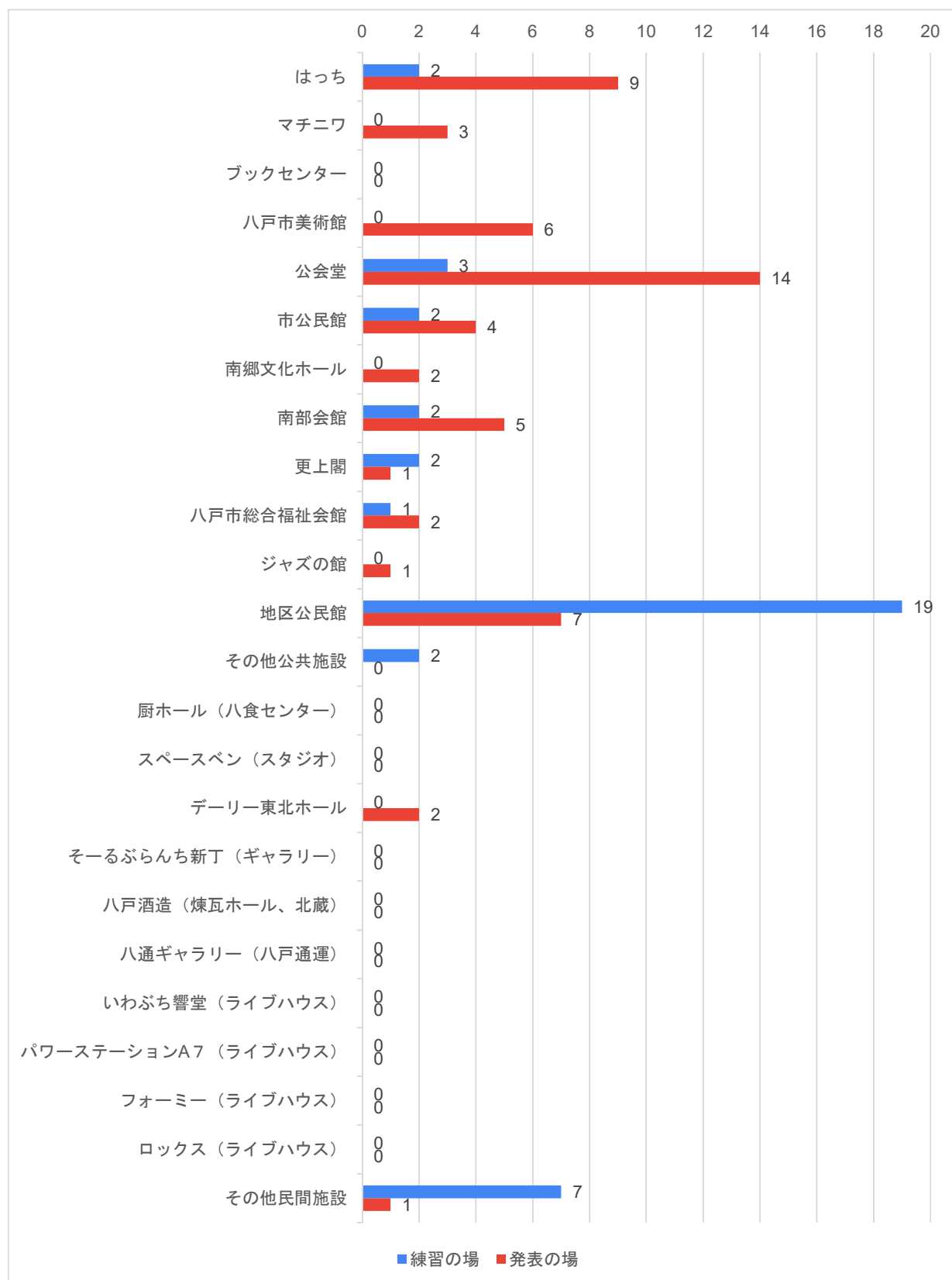
「月に1～3回程度」が最も多く、次いで「週1回以上」となっており、定期的な活動を維持している団体が一定数存在する。一方、「していない」「半年に1回程度」なども見られ、活動頻度にはばらつきがある。

(2) 発表など、不特定多数の方々へ活動内容を見せる機会の頻度はどの程度でしょうか？



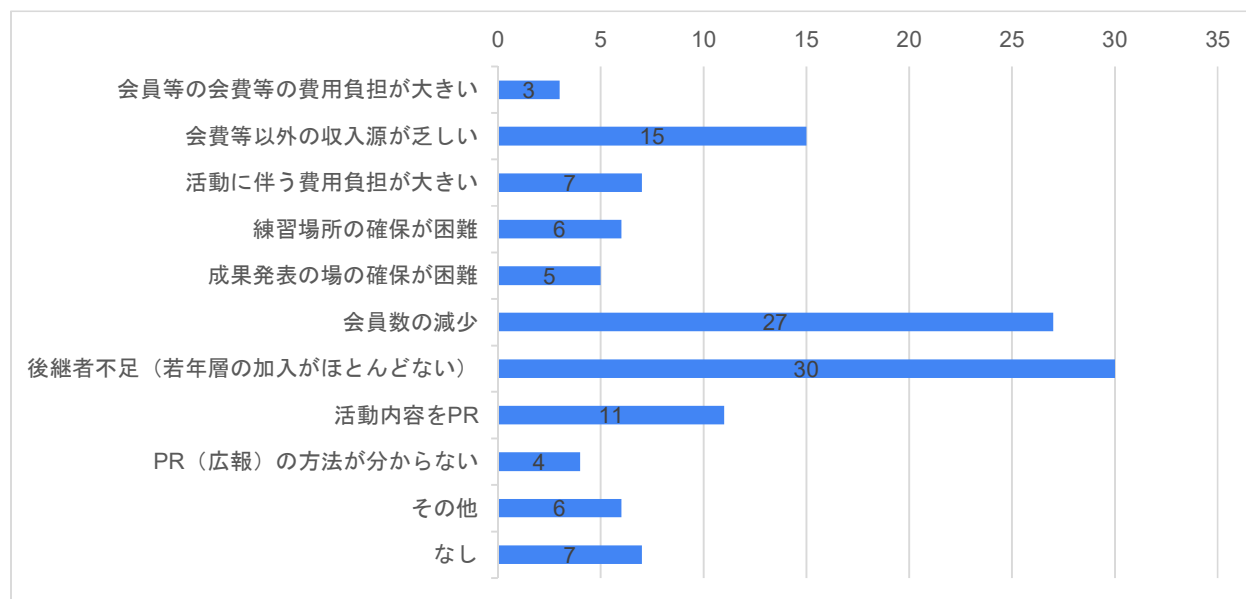
「年に1回程度」「半年に1回程度」が多く、発表の機会は比較的限られている傾向がある。

(3) 活動場所についてお聞きします。



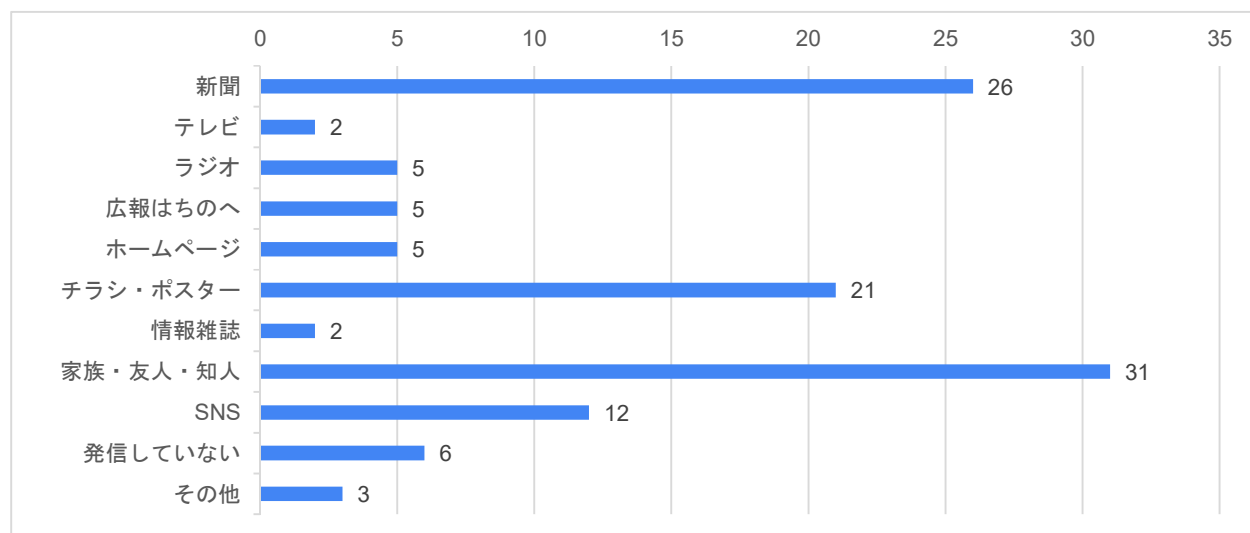
練習の場としては「地区公民館」の利用が突出して多く、身近で低廉な公共施設が活動の基盤となっている。一方、発表の場としては「公会堂」「はっち」「市美術館」などに利用が集中しており、施設の認知度や収容人数、アクセスのしやすさが回答に影響を与えていると考える。なお、民間施設の利用は全体として少数にとどまっている。

(4) 活動を継続していく上で、課題に感じていることは何ですか？



最も多い課題は「後継者不足」「会員数の減少」であり、人材の確保・世代交代が最大の課題となっている。次いで「収入源の乏しさ」「PRに関する課題」が挙げられており、活動を継続・発展させるための経営的・広報的基盤の弱さが浮き彫りとなっている。

問3 活動や発表のPR（広報）は、どのような媒体を利用して情報発信していますか？

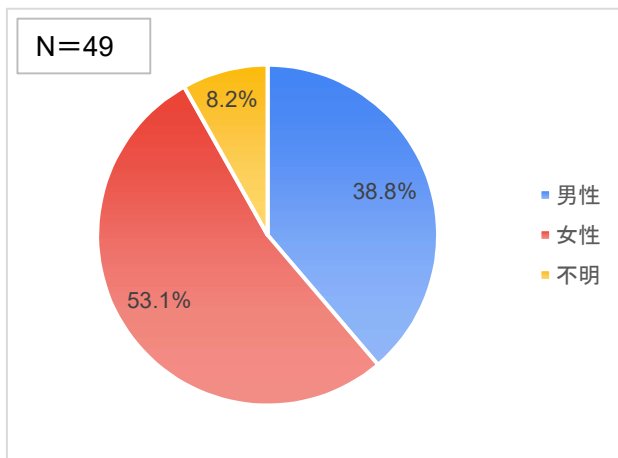


「家族・友人・知人への口コミ」「新聞」「チラシ・ポスター」が中心で、従来型の広報手法への依存が高い。SNSの活用も一定数見られるものの、全体としては限定的であり、情報発信の方法や効果的なPR手段に課題を感じている団体が多いことが推察される。

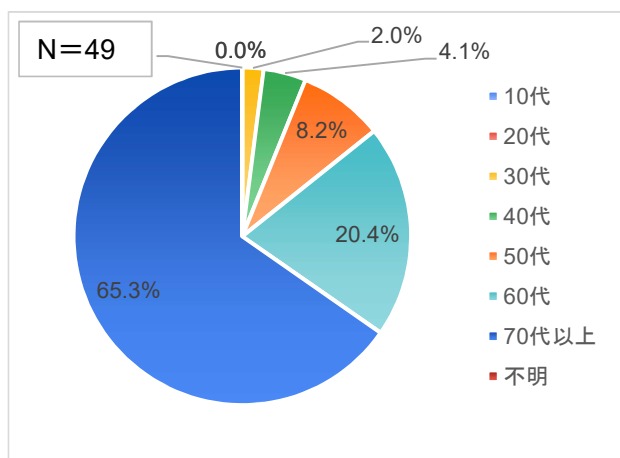
Ⅱ このアンケートにお答えいただいているあなた自身（個人）についてお尋ねします

問1 あなたについてお聞きします。

（１）性別



（２）年代

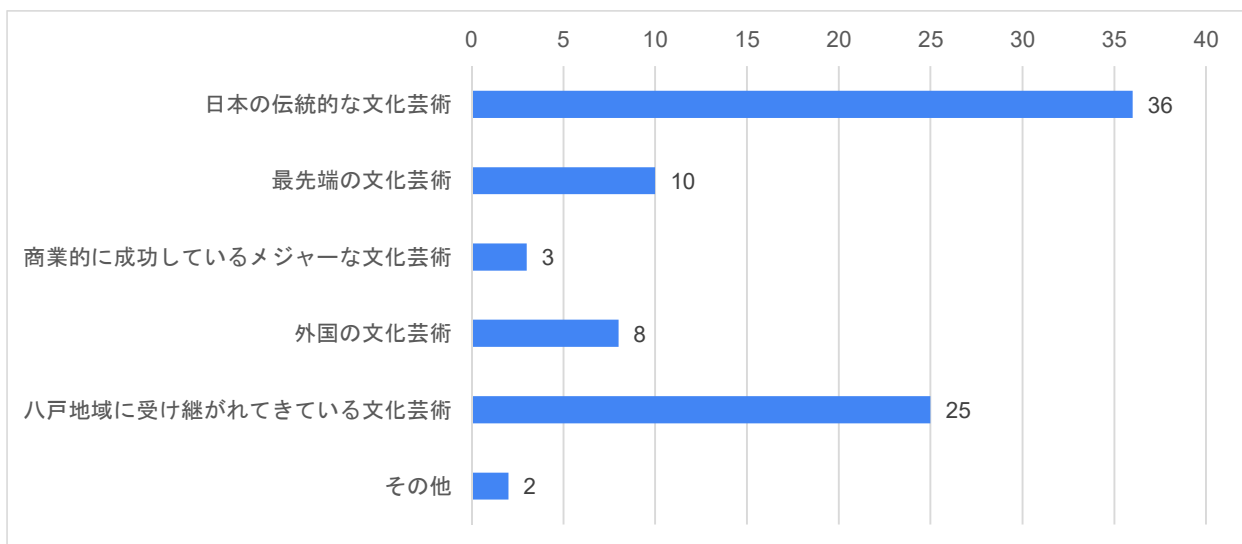


問1 （１）性別 （２）年代別

回答者は女性が過半数を占めており、文化団体運営において女性が中心的な役割を担っている実態がうかがえる。一方、男性の回答も一定数あり、性別によらず多様な担い手によって文化活動が支えられていることが分かる。

回答者は60代以上が約85%を占めており、長年活動してきた世代が文化団体運営の中心となっている。一方、若年層の回答は少なく、担い手の世代交代が課題としてうかがえる。

（３）どのような分野の文化芸術に興味・関心がありますか？

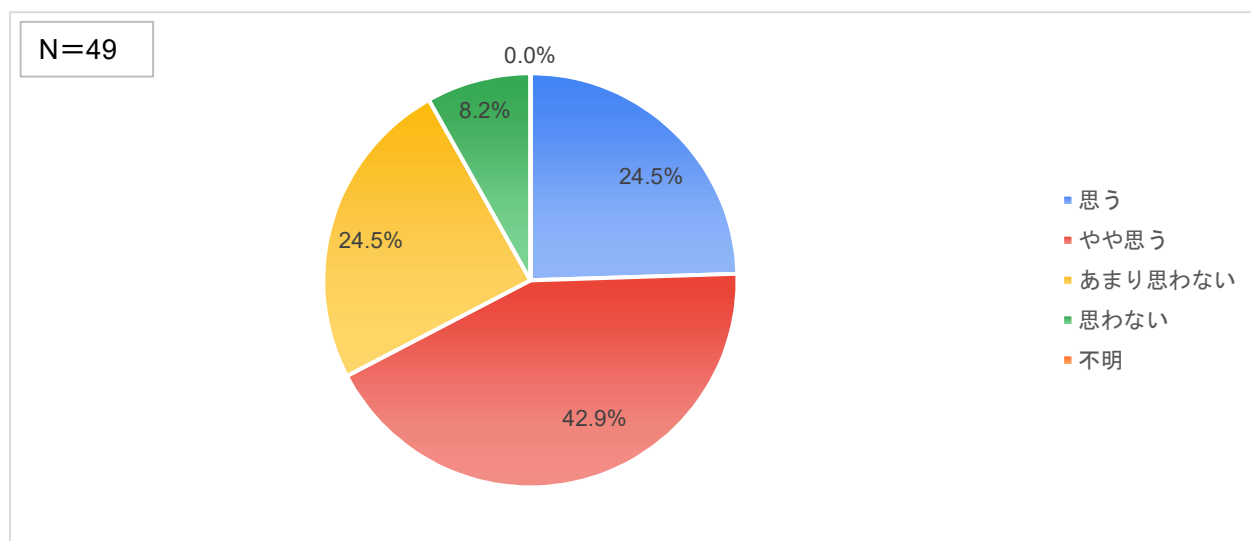


問1 （３）関心のある文化芸術分野

「日本の伝統的な文化芸術」や「八戸地域に受け継がれてきている文化芸術」への関心が高く、地域文化の担い手としての意識が強く表れている。一方、「商業的に成功しているメジャーな文化芸術」への関心は低く、営利性よりも継承性・地域性を重視する傾向が見られる。

問2 文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きします。

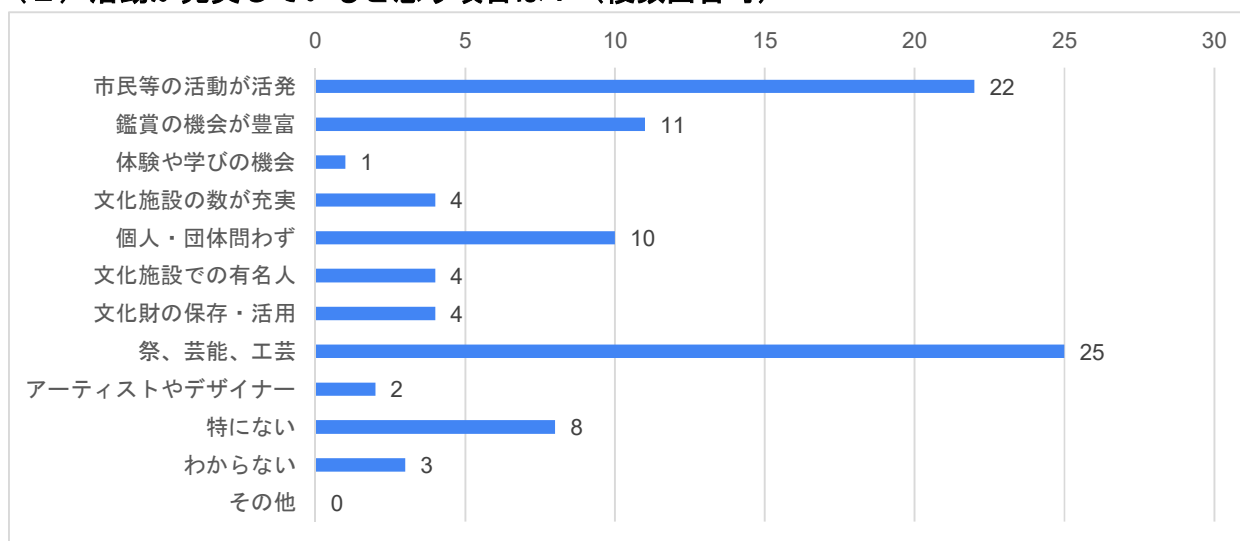
(1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思いますか？



問2 (1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思うか

「思う」「やや思う」を合わせると約7割となり、文化団体運営者として一定の評価をしている層が多い。一方で、「あまり思わない」「思わない」も約3割を占めており、活動の現場に近い立場だからこそ見える課題意識も存在していることがうかがえる。

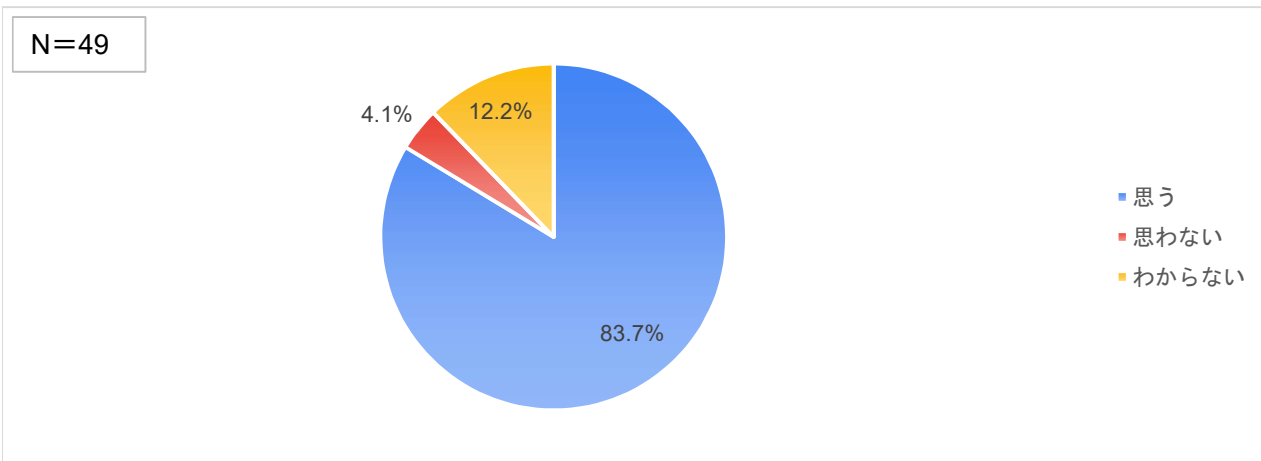
(2) 活動が充実していると思う項目は？（複数回答可）



問2 (2) 活動が充実していると思う分野

「祭、芸能、工芸など八戸ならではの文化の保存・継承・活用」が最も多く、地域固有の文化活動については一定の充実感が共有されている。一方で、「体験や学びの機会」「文化施設の充実」「アーティストやデザイナーの活動」などは低く、次世代育成や新たな創造分野については課題認識が強いことが読み取れる。

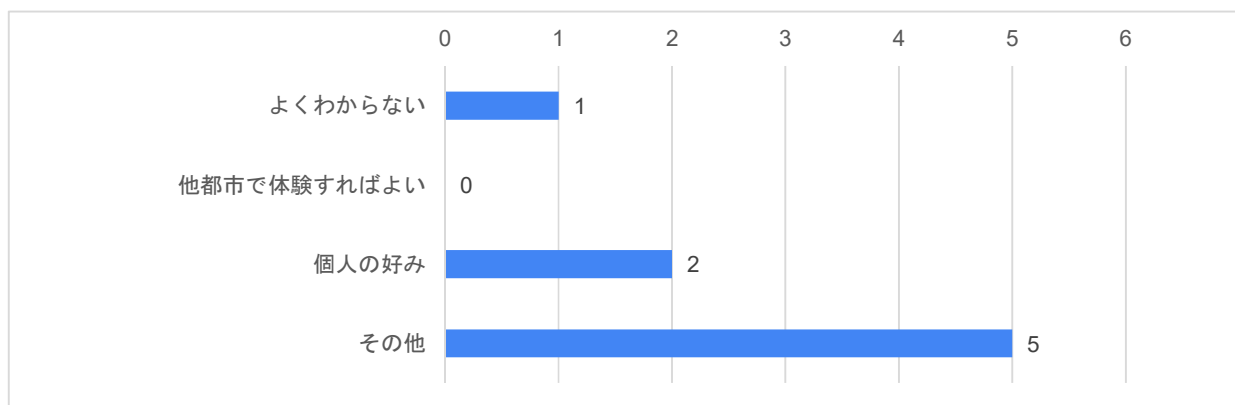
問3 文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、魅力的な街をつくることにつながると思いますか？



問3 文化芸術の充実と魅力的な街づくりとの関係

「思う」と回答した人が8割を超えており、文化団体運営者の多くが、文化芸術の充実が魅力ある街づくりにつながると強く認識している。文化活動を通じた地域づくりへの当事者意識が高い結果といえる。

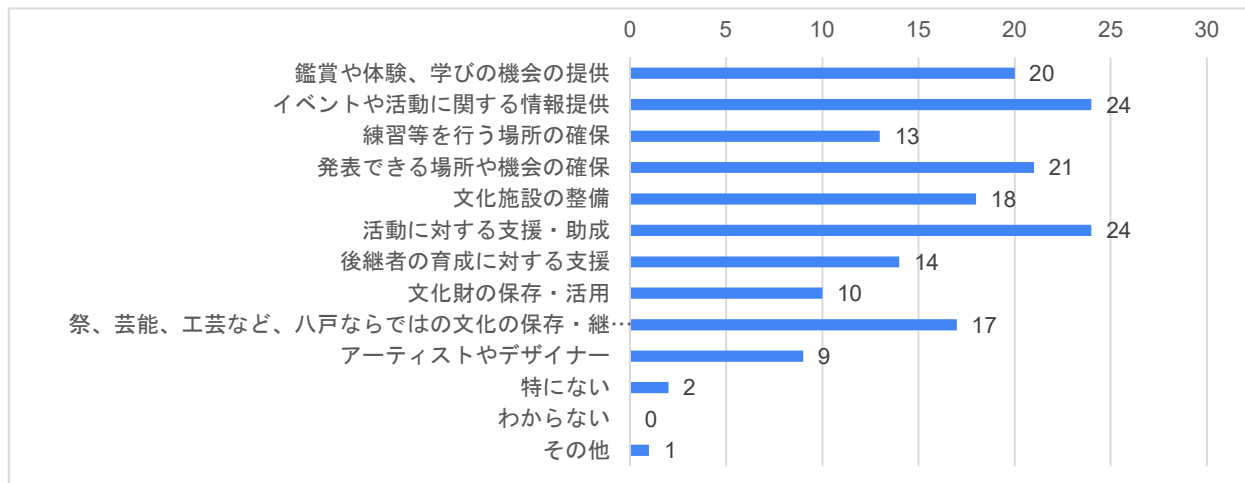
問4 問3で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。



問4 問3で「思わない」「わからない」とした理由

回答数は少ないものの、「個人の好みの問題」や「その他」が挙げられており、文化芸術とまちづくりとの関係性が十分に共有されていない層が一部存在していることが分かる。

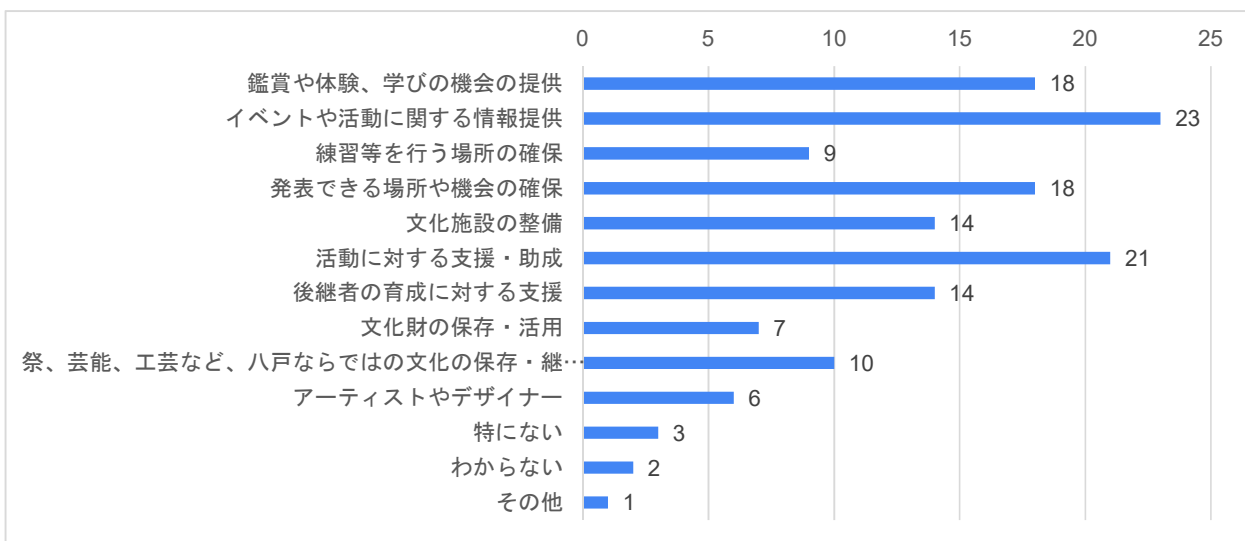
問5 文化芸術に関して、行政（県や市等）が取り組む必要があると思う分野は？
（複数回答可）



問5 行政が取り組む必要がある分野

「情報提供」「活動に対する支援・助成」「発表できる場所や機会の確保」が多く、文化団体運営者は、行政に対して活動を支える環境整備や制度的支援を強く求めている。特に、団体単独では対応が難しい分野について、行政の役割を期待している傾向が明確である。

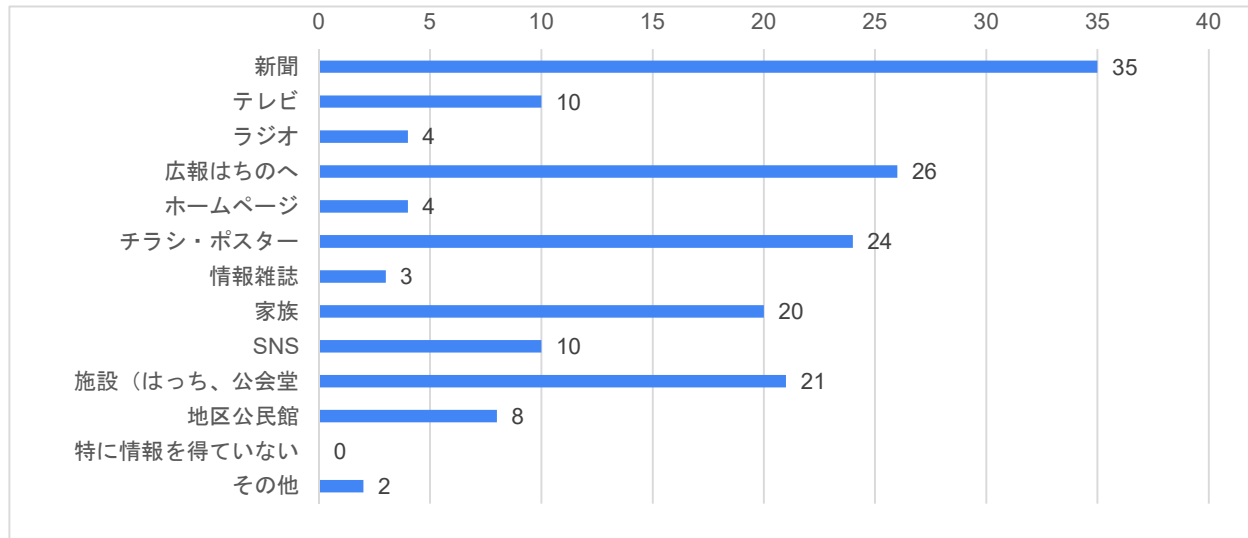
問6 文化芸術に関して、民間（企業、市民団体等）が取り組む必要があると思う項目は？
（複数選択可）



問6 民間が取り組む必要がある分野

民間に対しても「情報提供」「支援・助成」「鑑賞や体験の機会提供」などが多く選ばれており、行政と民間のいずれかに役割を限定するのではなく、双方が連携しながら文化芸術を支えることへの期待が表れている。

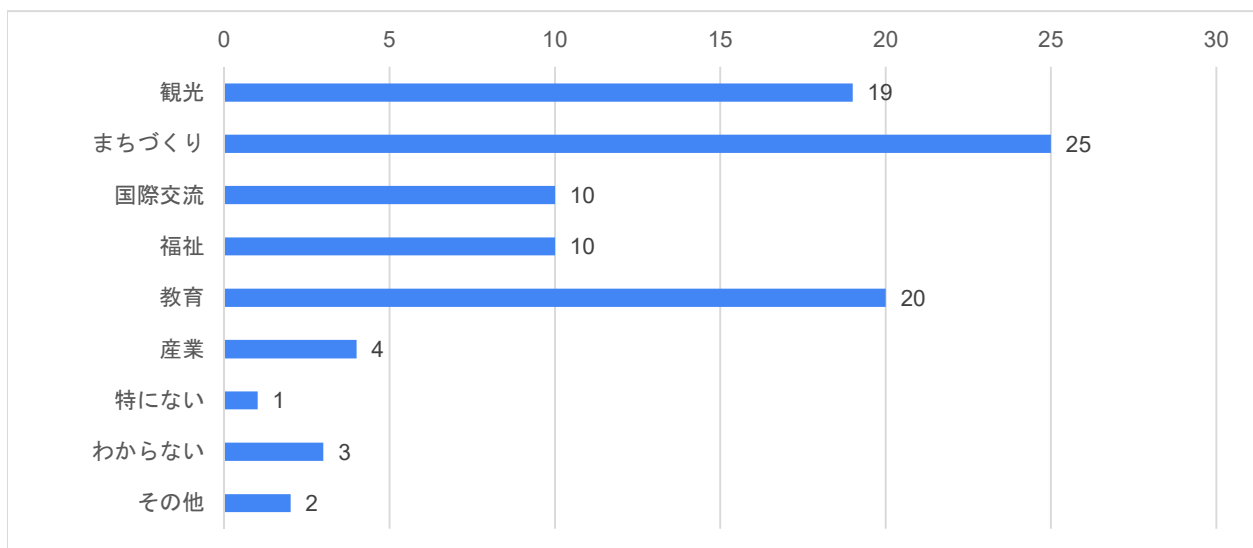
問7 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。



問7 文化芸術情報の入手先

「新聞」「広報はちのへ」「チラシ・ポスター」「施設」など、紙媒体や対面の情報源が多く利用されている。紙回答が中心である本調査の特性とも整合しており、文化団体運営者に対しては、従来型の情報発信手法が依然として有効であることが分かる。

問8 文化芸術が活かされていくと良いと思う「分野」はありますか。（複数選択可）

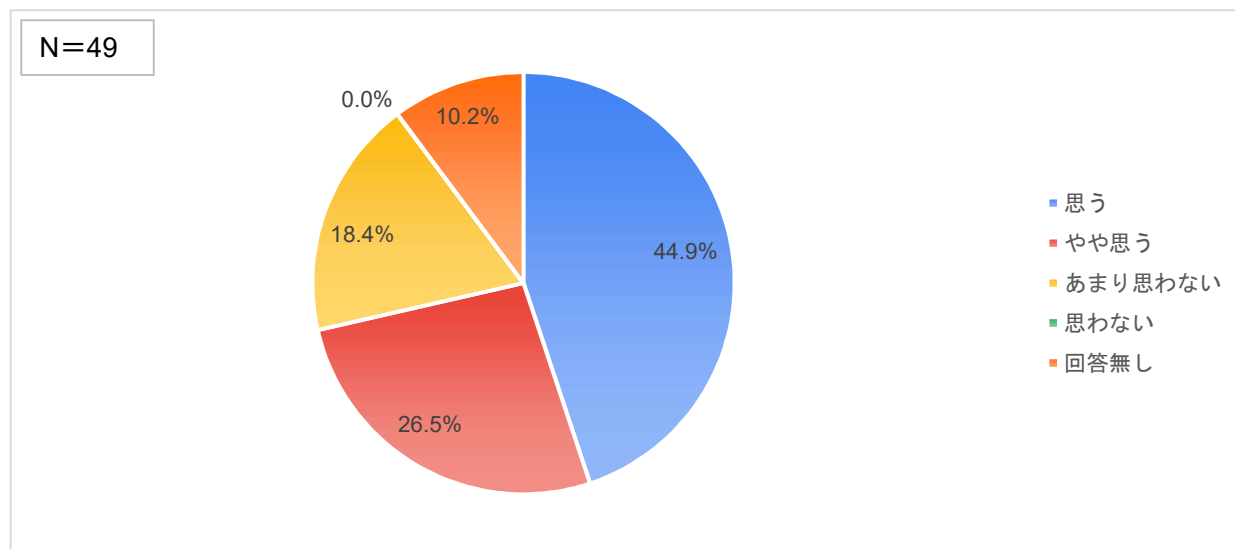


問8 文化芸術が活かされると良い分野

「まちづくり」「教育」「観光」が多く、文化団体運営者は文化芸術を地域づくりや人づくりの中核的要素として捉えていることがうかがえる。一方、「産業」は低く、経済的価値よりも社会的・地域的価値を重視する意識が強い結果となっている。

問 9

(1) 他団体・企業・学校などと連携して活動を広げたいと思いますか？



問 9 (1) 他団体等との連携意向

「思う」「やや思う」を合わせると約7割となり、多くの団体が他団体や企業、学校との連携に前向きである。一方で、一定数は慎重な姿勢を示しており、連携を進めるためには目的の共有や具体的な支援策が必要であることが示唆される。

(2) (1) で1 思う、2 やや思うと回答した方はどのような相手とどのような活動をしたいですか。

【A】学校・子ども・若者との連携

- ・児童・生徒に楽器や音楽（マンドリン、合唱、日本舞踊等）を知ってもらいたい
- ・小学校・中学校での文化体験、授業連携（家庭科、日本文化体験等）
- ・子ども・若い世代に伝統文化・舞踊・ハワイアンダンス等を体験させたい
- ・文化クラブ活動への指導・教育支援

【B】他文化団体・同ジャンル団体との交流

- ・同じジャンルの団体同士で発表会・合同展示を実施
- ・写真クラブ同士の合同写真展
- ・他団体交流、文化団体間の交流機会を増やしたい
- ・舞・踊り・歌謡・演奏など分野横断のコラボ

【C】企業との連携・支援

- ・企業によるスポンサー支援を求める声
- ・企業・学校・団体が参加できる「クラブ的な活動時間」の創出
- ・企業の仕事後や昼休みに日本文化（華道など）を体験
- ・若い世代参加のため、企業からの支援を期待

【D】観光・地域資源との連携（文化×観光）

- ・海外観光客向け文化体験（酒造会社WS、ラベル制作）
- ・種差海岸、更上閣など地域資源を活かした文化体験
- ・観光団体との連携

- ・市民・観光客に伝統文化の魅力を伝えたい

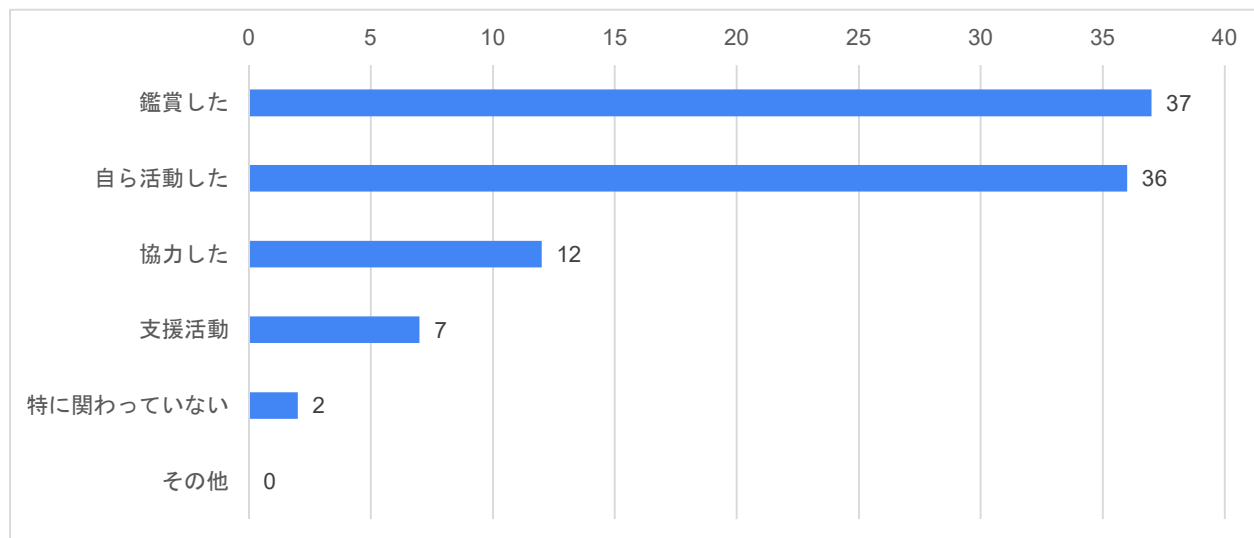
【E】総合芸術・新しい表現への挑戦

- ・オーケストラ、合唱、演劇、服飾、飲食などを組み合わせた総合芸術
- ・創作オペラなどジャンル横断のステージづくり
- ・生演奏＋飲食（アルコール）によるライブ文化の裾野拡大

【F】情報発信・PRの課題

- ・アイディアはあるが、発信力（PR）が不足
- ・個人・団体単独では限界がある

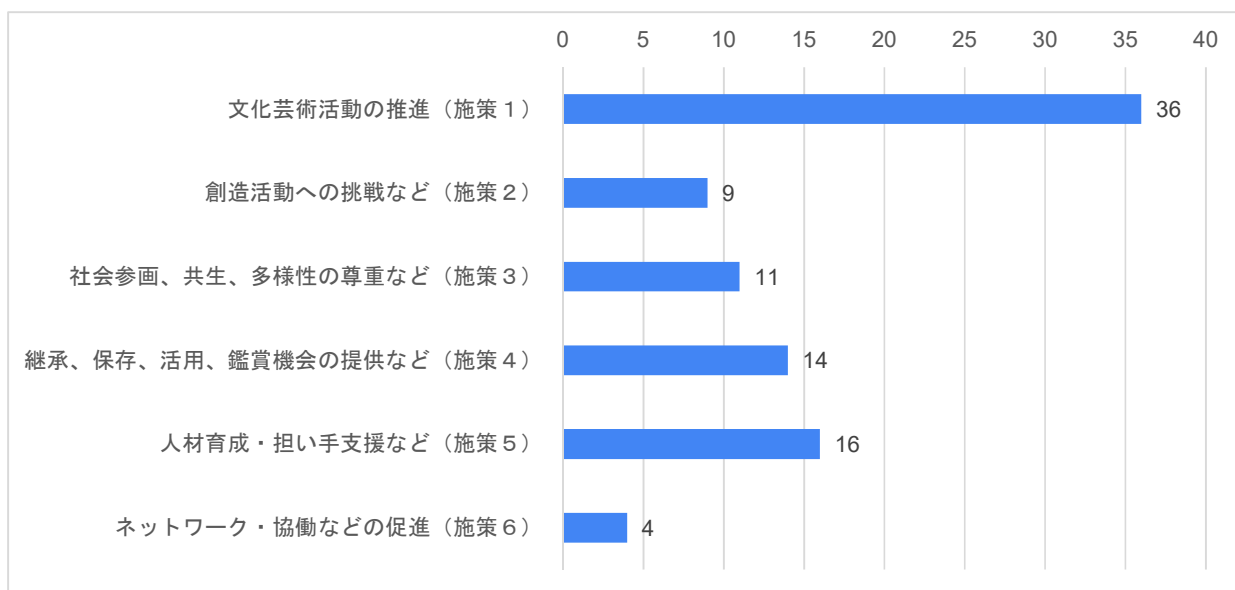
問10 過去1年間で、文化芸術にどのように関わりましたか。（複数選択可）



問10 過去1年間の文化芸術との関わり方

「鑑賞した」「自ら活動した」がほぼ同程度で多く、文化団体運営者が鑑賞者であると同時に実践者でもあることが明確に表れている。「特に関わっていない」が極めて少ない点からも、文化芸術活動を日常的に担う層の実態が反映された結果といえる。

問11 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択してください。



問11 今後の文化芸術政策の方向性

「文化芸術活動の推進」「人材育成・担い手支援」「継承・保存・活用」が多く選ばれており、文化団体運営者は、日常的な活動の継続と、それを支える人材・基盤づくりを重視している。一方、「ネットワーク・協働」は比較的少なく、今後はその意義や具体像を共有していくことが課題と考えられる。